

## 製品名: FGF-1 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab10918

研究使用のみ

### 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

### 応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

### 抗原情報

遺伝子名	FGF1
別名	FGF1; FGFA; Fibroblast growth factor 1; FGF-1; Acidic fibroblast growth factor; aFGF; Endothelial cell growth factor; ECGF; Heparin-binding growth factor 1; HBGF-1
遺伝子 ID	2246.0
SwissProt ID	P05230
免疫原	抗血清はヒト FGF-1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 7-56

### 背景

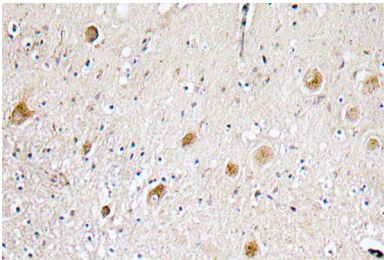
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、線維芽細胞増殖因子 (FGF) ファミリーのメンバーです。FGF ファミリーのメンバー

は、広範な細胞分裂促進作用および細胞生存活性を有し、胚発生、細胞増殖、形態形成、組織修復、腫瘍の増殖および浸潤など、様々な生物学的プロセスに関与しています。このタンパク質は、血管新生因子であると同時に、内皮細胞の移動および増殖の修飾因子としても機能します。in vitro において、様々な中胚葉および神経外胚葉由来の細胞に対して分裂促進因子として作用することから、器官形成に関与していると考えられています。異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシングバリエントが報告されています。[RefSeq 提供、2009年1月] 機能: ヘパリン結合増殖因子は、in vivo で血管新生因子として、in vitro では様々な細胞タイプに対して強力な分裂促進因子として作用します。これら2つの成長因子は、組織分布と濃度に違いがあります。、その他: このタンパク質はヘパリンと結合しますが、bFGFほど強く結合しません。、類似性: ヘパリン結合成長因子ファミリーに属します。、サブユニット: モノマー。FGFR2に結合します。ヘパリン1分子に対してFGFR2とFGF1がそれぞれ2分子ずつ結合した三元複合体を形成します。FGFBP1、FGF1、FGF2との複合体を形成します。FGFBP1と相互作用します。、

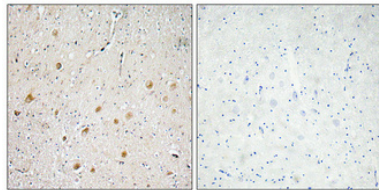
## 研究分野

MAPK\_ERK\_Growth;MAPK\_G\_Protein;アクチンと細胞骨格を制御;がんの経路;黒色腫;

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト脳組織における FGF-1 抗体の免疫組織化学分析。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高压高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。